

# 令和 6 年度 鶴見大学・鶴見大学短期大学部 外部評価報告書

## 1. 外部評価の目的

外部委員は、学長の依頼により、全学自己点検評価委員会規程に基づき、本学の教育・研究活動の一層の改善や充実に資する提言を行う。その内容をもとに「外部評価報告書」を作成し、学長に提出する。その結果を学外にも公表し、本学の教育研究活動をさらに充実・発展させていく。

## 2. 令和 6 (2024) 年度外部委員

- ・佐藤 健二（株式会社西田書店 代表取締役）
- ・辻川 智子（駒澤大学 募金事務室 課長）

## 3. 評価対象

公益財団法人大学基準協会が定める大学基準に基づき作成した「令和 5 (2023) 年度 鶴見大学 点検・評価報告書」のうち、以下 2 つの基準を対象とする。

- ・第 4 章 教育課程・学習成果
- ・第 5 章 学生の受け入れ

## 4. 評価の基準

S:大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的を実現する取り組みが卓越した水準にある。

A:大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的を実現する取り組みが概ね適切である。

B:大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的の実現に向けてさらなる努力が求められる。

C:大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

## 5. 関連資料

- ・令和 5 (2023) 年度 鶴見大学 点検・評価報告書
- ・「大学基準」及びその解説
- ・全学自己点検評価委員会規程
- ・全学自己点検評価委員会における外部委員に関する規程

## 6. 外部委員による外部評価結果

### (1) 第4章 教育課程・学習成果

評価：A

#### 長所・特色

- ・各学部对学生に対する教育方針は、明確に示されている。
- ・教育課程の編成にあたって、各学部で学年進行に応じ、基礎科目から専門科目への順次性・体系的に配慮し、さらにクラス担任制による学生指導を実施している。
- ・文学部日本文学科において、高大接続に配慮した初年次カリキュラムを編成、英語英米文学科及び文化財学科においては、1年次から必修の演習科目、実習科目が配置されている。またドキュメンテーション学科においては、初年次教育として「基礎演習」を設け、大学で学ぶ基礎を養うことを目的に、担任教員が少人数制で担当している。
- ・大学院文学研究科においては、社会人学生の受け入れとともに就業しながらの学位取得を見越したカリキュラムが設置されている。
- ・歯学部では「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」に基づき、歯科医師として必要な能力を育成し、理解を深めていくカリキュラム編成のみならず、進級要件を課した科目、実習科目を設置し、体系的かつ段階的な学習を効果的に積み上げられるよう配慮している。また、シラバスの内容を指導教授等が詳細に説明し、年間を通じて修得できる能力を理解させるよう指導を徹底している。さらに、大学院生のティーチングアシスタントを採用するなど、学習、学生生活に関して適切に指導・助言を行う体制の構築など個々の学生に合わせ丁寧な支援を行っている。
- ・歯科医師国家試験への取り組みとして、学生の学修補完、より深い理解を促すために「歯科医学教育講座」を設置している。その成果は、国家試験合格率で示されている。
- ・履修及びその他効果的な学習指導のために、学習アドバイザーを配置し、気軽に相談できる体制を整えている。
- ・学習支援システムを活用した質問への応答、フィードバックを積極的に進めている。併せてクラス担任、オフィスアワー制度の設定等、学習・生活の両面でのサポートを行っている。

#### 問題点

- ・退学者が増加している現実を踏まえて経済定員を改め、一般選抜を重要視することが必要だと思う。特に歯学部においては、基礎的な自然科学系科目を十分に身に着けたのちに、専門科目に移っていくことが必要と考える。成績不振者に対する支援も限度があるため、入試の際に選抜することも重要だと思われる。基礎的な知識の咀嚼が不十分なままで進級することは、学生にとっても負担が大きいと考えられる。
- ・内部質保証体制については、令和6（2024）年度より学則に明記するとされており、速

やかにホームページ等で広く一般に公表されることが望まれる。

・学習成果の把握及び評価の取り組みに対し、全学的組織での検証については実施されていないことが問題点として挙げられている。学内組織での検証のみならず、学生自身が授業やカリキュラム等で求められる到達目標をどの程度達成できているか等を確認できるよう、ループリックなどの評価ツール活用の検討も課題である。

#### 概評

- ・大学基準 4 の総ての評価視点において、概ね適切に行われている。
- ・学則、全学共通のディプロマ・ポリシーのもとに、全学共通のカリキュラム・ポリシーを定め、学部及び研究科においてもカリキュラム・ポリシーを策定し、関連性を持たせた上で広く一般へ公表しており、学生にも周知されている。
- ・各研究科及び学部・学科において、学位授与方針、教育課程の編成を実施し、適切な学位授与を目指し、自己点検・評価の取り組みが行われている。
- ・文学部では、単位の実質化を図る措置として卒業所要単位算入科目について、平成 18（2006）年度以降の入学生より、年間の履修登録単位数の上限を定めている。併せて単位の実質化を保証するため、総履修者数のうち S 及び A の評価については上限を設けている。
- ・大学院各研究科においてコースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育となるよう配慮がなされている。
- ・大学院各研究科において、学生の事情に応じて柔軟な学習機会を提供できるよう長期履修制度（標準修業年限を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修し修了すること）を導入している。
- ・教育課程及びその内容、方法の適切性については、「全学自己点検評価委員会」及び「全学教学マネジメント会議」を設置し、「授業評価アンケート」「学生の学修・生活に関する調査」「卒業時調査」を元に学修成果の獲得状況を把握し、改善を図る体制を構築している。
- ・授業内容の具体的な提案として例を挙げるならば、日本文学科においては源氏物語研究所を擁しているので、日本文学科に入学してきた学生全員に対して、源氏物語の 1 章を必修科目にするなどの特色を出す必要があると考える。併せて変体仮名についても学習し、基本中の基本である 50 音の源の知識を習得できることは重要である。日本文学科に限らず、各学部の教育方針を明確にすることが求められる。
- ・各学部の教育方針に対して、学生の実態との違和感がある。
- ・学生のニーズに合わせた新たな学部学科の新設を検討することも重要と考えられる。
- ・就職に有利になる（秘書検定その他）資格の取得を積極的に促す。
- ・クラス担任制度を活用し、学習指導のみならず課外活動や現場実践活動を薦めるなど、

体験を通じて達成感を体験させることも必要と考える。

## (2) 第5章 学生の受け入れ **評価：B**

### 長所・特色

- ・学生の受け入れについては、選抜内容に明確な基準が設けられている。
- ・入試体制も整備されている。
- ・ホームページ「受験生応援サイト」にチャットボット機能を設置、また Zoom による個別相談、さらには SNS による最新情報の発信、YouTube を利用した授業動画配信等、オンラインを活用し、受験生や保護者に寄り添った発信及び対応を行っている。
- ・歯学部は大学入学共通テスト利用型選抜の受験生及び外国人留学生特別選抜で来日が困難な受験生に対し、オンラインにて学内での受験と同様の内容で面接試験を実施し、公正を確保している。
- ・歯学部においては、編入学試験に特化した取り組みとして説明会を実施、それ以外の受験生に向けては附属高校との高大連携や歯学部同窓会との連携強化などを進めている。

### 問題点

- ・積極的な広報活動を実践する。大学進学フェスタなどには積極的に参加し、アピールする。優秀な卒業生等に協力を促し、広報活動に協力してもらう。このような活動を通じて、大学の魅力を伝える努力が必要と考える。
- ・文学部では各学科において基本方針を定め「大学案内」に記載されているが、それぞれ独自の教育を実施（ホームページカリキュラム・ポリシーに記載）していることから、学科ごとに3つのポリシーを定め、学習評価や選抜方法との関連性をマトリクス表なども用いて公表することが望まれる。
- ・志願者数の低下と入学定員の充足率については最重要課題であり、特に歯学部は年度によって募集定員の5割に満たない厳しい状況である。入学前後におけるサポート体制や選抜制度の見直し、積極的な広報活動などにより一定の成果が得られているが、一層の改善が望まれる。競合校や18歳人口、地域の人口構成の変遷、社会的動向の変化などを分析し、中長期的な戦略が必要であると考えられる。
- ・大学院各研究科の充足率について改善の必要がある。ただし、各研究科を対象にした長期履修制度や、大学院の活性化と学部教育と大学院教育との連携を図ることを目的とした早期履修制度を導入していることなど様々な施策を行っていることから、今後の改善が期待される。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概評                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準5の総ての観点について、概ね適切に行われている。</li> <li>・大学全体のブランディングを早急に策定し、社会に表明することが必要と考える。</li> <li>・全国最高水準の図書館を有し、幅広い知識を身に着けることができること、また總持寺の敷地内にある緑豊かな学舎で、年次を越えた他学部との交流、大学と大学院の連携教育・研究が可能な環境、さらに文学部において教員免許及び司書、学芸員の資格取得が可能であることなどの特色を一層広めていくことが必要である。在学中の学生は、このような資格の重要性を自覚していない場合が多々ある。社会に出てから、諸々の場面で後悔のないように指導することもキャリア支援の重要な責務と考える。</li> <li>・全学共通のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえたアドミッション・ポリシーを定め、各学部・研究科のアドミッション・ポリシーにおいて求める学生像を本学ホームページに公表している。併せて受験生への周知のために「大学案内」「募集要項」に入学前の学習歴、学力水準、能力等を掲載している。</li> <li>・「全学入試対策委員会」等を中心とした運営体制を適切に整備し、入学者選抜制度や学生募集方法の適切な設定、公正な入学者選抜が行われている。</li> <li>・受験の際、感染症に罹患する等のやむを得ない場合は、状況に応じた措置を取るとともに、入学後の学生生活において特別の配慮を必要とする受験生には事前相談の機会を設け、合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施するなど、適切な対応がなされている。</li> <li>・学生の受け入れの適切性については、各学部の入試対策委員会において定期的に評価・点検を行っており、合格基準、学生募集、選抜方法の改善・向上に努め、「全学自己点検評価委員会」、内部質保証推進組織である「大学運営協議会」への報告が行われている。</li> <li>・志願者増や定員確保のために、入学者選抜制度（出願基準等）の見直し、Web 媒体を活用した広報の他、教員・職員による高校訪問、出張講義、予備校訪問、進学相談会への参加、歯学部では編入学試験に特化した説明会や全国の歯科医院にも案内を送付するなど大学全体で取り組んでいる。</li> </ul> |

以上